



78  
まいん

# しさがゆうびんきょく 四坂郵便局



四坂郵便局

## しさが 四坂

## ゆうびんきょく 郵便局

は、四  
阪島製錬所の建設工事が明治  
30年(1897)1月から本格的に開  
始され、大勢の作業員が島に居  
住するようになり、通信や送金  
などの都合上、郵便局の開設が  
必要になり、明治33年8月1日に  
四阪島郵便受取所として開設さ  
れました。

四  
阪  
島  
唯一の郵便局  
島人と山人を結ぶ

四阪郵便受取所では、郵便の他、為替・貯金事務も取扱っていました。

その後、四阪島製錬所も操業を開始し、郵便受取所の事務量が激増したことから、明治37年12月20日に四阪島郵便局へ昇格しました。

ところで、明治39年1月1日四阪島郵便局は、四坂郵便局へと改称されましたが、何故そうなったかは不明です。

明治41年12月11日には、局舎が改築されるとともに、一般公衆の電信・電話の取扱いも開始されました。



きたうらさんぼし  
北浦棧橋(昭和32年8月完成)に泊まる

通勤船「みのはな」(平成4年(1992)3月就航) 通勤時間35分

大正9年(1920)9月1日からは四阪島と新居浜以外との電話が開始され、工場や社宅の主な所に私設電話も架設されました。昭和9年(1934)7月には、島内の電話機は60個と記録されています。

ところで、局舎は56年間の使用により、老朽化がいちじるしくなり、昭和40年11月5日に新築(財団法人郵政互助会)されました。

その際、住友の幹部は「明治28年に島を買収して以来一銭の外部資産も入っていなかった住友の島に初めて外部資産が入った」と嘆いたというエピソードが残されています。



ポンプ小屋(明治40年完成)

現在も使用可能で毎年1回頂上タンクに水を上げる

工場の発展とともに集配郵便局となり、電信・電話を含め郵便局の業務は拡大していきますが、昭和51年、銅製錬の操業終結などにより島の世帯数が激減、昭和51年9月20日に集配事務を廃止し、新居浜郵便局の集配区域に改定されました。

昭和52年4月には、新居浜からの通勤体制へ移行により、四阪島において77年間にわたり島の人々の生活に密着し、また会社の命運をかけた通信の迅速な送達に当たるなど、公共の福祉の増進に貢献してき四坂郵便局の使命はここに終わりました。

現在も郵便局の建物を始めとして、その周辺にはいくつもの産業遺産が残されています。

